

たむらソーシャルネット ニュース

三年目

に向かっています

皆様のおかげで、なんとか三年目を迎えることができました。たむらソーシャルネットの役割

皆様との出会いを通じて、日々新たな経験をさせていただくこと

最近、異業種の方に会社の説明をさせていただく機会がありました。そのときに、「どうして、そんなにいろいろな仕事をすることができのですか」と言われました。しばらく考えられ、「解かりました。あなたがたの会社は、ネットでお仕事されているのですね。」「えっ」と問い返す私に「人の繋がりと

その結果が、役に立つ私達であればと願っています。これから、いろいろな宿題を皆様から頂きながら、そして学ばせて頂きながら、前を向いて進んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

「だからあなたがたがたがしようと思う以上にいろいろな仕事に出会っているのではないですか」

（有）たむらソーシャルネット
田村 満子

日々を時間の流れるままに、過ごしがちになっていたこの頃だっただけに、あらためて本

「日本の社会福祉におけるたむらソーシャルネットの役割」

当に、多くの方々との思わぬ出会いを通じて、会社設立当初には想像もなかった経験をさ

たむらソーシャルネット代表の田村満子さんと初めてお会いしたのは、確か共通の知人の紹介だったように思う。小柄で華奢な身体からは想像できないほどのバイタリティーを感じとったことを記憶している。その後、公私ともども田村さんとたむらソーシャルネットにはお世話になって

は想像もなかった経験をさ

私は二十代の後半から四十年になるまでの約十三年間をアメリカで過ごし、そこで社会福祉の教育・実践にたずさわってきた。七年ほど前に日本に帰ってきたときには、私がアメリカで学んだような真の意味での「利用者主体」でかつ、「専門職としての適切な利用者との関わり方」のできる実践を期待してはいけな

は想像もなかった経験をさ

ドバイスされていた。そんな私が「この人たちの仕事はプロの仕事」と思わせてくれるのがたむらソーシャルネットの仕事である。たむらソーシャルネットがやっている仕事は一般に「対人援助職」と呼ばれるものであるが、この職種は利用者個人の生活の資質の向上（ミクロの仕事）を目指す、個人のケアを通して見つけ出した地域・社会の問題改善の努力も必要である（マクロの仕事）。たむらソーシャルネットは、このどちらも忘れずに実践している数少ない稀有な存在である。たむらソーシャルネットのような仕事は世のスタンダードとなる日まで、田村満子さんとスタッフのみなさんが「燃え尽き」ないで仕事を続けてくださることを心から祈っている。そのために私も研究者・教育者として尽力したいと思

は想像もなかった経験をさ

田村 満子

たむろんインターネット活動報告

今年一年の活動報告です。昨年からは引き続き実施している活動や、昨年から少し形を変えて行っている活動もあります。

◆◆ 訪問介護事業 ◆◆

介護保険制度における「サービス提供事業所」の指定を大阪府より受けております。皆さまのご自宅におうかがいし、サービス提供を行います。

平成十四年十一月現在 利用者数 十七名

◆◆ 介護保険外サービス ◆◆

介護保険外の介護、外出支援などを行います。病院や施設にいらつしやる方に対するサービスも実施します。

平成十四年十一月現在 利用者数 三名

◆◆ 居宅介護支援 ◆◆

〔ケアプラン作成〕

ケアプランの作成 介護保険の申請代行や、介護保険でのサービスを「どこで」「どのくらい」受けるのかといったサービス計画を作成します。

◆◆ 研修事業 ◆◆

今年はい個別プログラム研修として、「特別養護老人ホームあいぜん」の新人研修を企画・実施させて頂きました。講義や日々の実務を振り返り今後の実務に活かしていくための『振り返りシート』の記入、また、それをもとに面談などをさせて頂きました。職員の村井麻知子様に研修についてのご意見をお聞きしました。

「職場の体制づくりについてのアドバイスなど、大変役に立ちました。また、週一回の振り返りシートの記入は、新人職員には『あいぜん』の理念に添った実務を行っているか」といった日々の業務の振り返りができたので、力をつけた部分も大きいと思います。要望としては、もう少し密に来て、職員と直に接する中で、介護についての技術的なことを教えてもらう時間がとれればよかったです。新人職員の研修への意識づけを高めるには、直接その人の活動を側でみながら、技術を獲得していくということも重要な要素のようです。ただ、こうい

研修の成果は、すぐに出てこない側面もありますので、研修の本当の効果が出てくるのはこれから半年後、一年後かと思っております。今は実務をこなすことでもいい、いつばいの新人職員も少し落ち着いてきたときに、研修で言われていたことを思い出しているのびていくのを期待しています。」

評価していただいた点、ご指摘のあった点を踏まえて、今後の研修活動に活かしていきたいと思っております。

◆◆ 講師派遣 ◆◆

さまざまな関係先で講師活動をさせていただきますました。ありがとうございました。また、ご意見・ご要望などありましたら、ぜひお願い致します。

表1 講師分類別構成比(%)

| 講師先 | 構成比 |
|-------------|-------|
| 公的機関(専門職団体) | 43.8 |
| 大学 | 18.4 |
| 医師会 | 2.6 |
| 民間 | 20.5 |
| 新設法人職員研修継続 | 10.6 |
| 社協事例検討研修継続 | 1.8 |
| 弁護士会 | 2.3 |
| 合計 | 100.0 |

◆◆ 会議室貸し出し ◆◆

福祉に関わる内容の会議・集会にご利用下さい。

ご利用料は以下の通りです。

午前9時～午後12時

3,000円

午後1時～5時

4,000円

午後5時～9時

5,000円

平成十四年度は、大阪社会福祉士会関係の会議・ホームヘルパー養成研修には、会議室・研修場の提供をさせていただきました。



あんなに世話が(た)

ハイブリッドインタビュー

たむらソーシャルネット訪問介護
事業をご利用のみなさまからさま
ざまな“声”をお聞きすることがで
きました。

「一人ぐらしを悔められて」

長谷川 はる 様

長谷川さんは、平成十三年一月の
こと、朝、急に体調が悪くなって、
様子を見に来られた娘さん夫婦の
家へそのまま一緒に連れていって
もらったそうです。

そして滞在すること一年半、体力
も少しづつ回復したので、夏には帰
ろうと決意し、思い切って六月末に
帰宅されました。

たむらソーシャルネットは週二
回訪問し、掃除や洗濯をし、又、ご
一緒に散歩をさせてもらっていま
す。週一回、娘さんも訪問され、十
月からはデイサービスの利用も始
められました。

「できないことはしようがない
けど、出来ることはしないとね。無
理しない程度に、、、。ちよつとさび
しいけども気楽。」と話す、はるさ
んの笑顔はとてもステキです。前向
きな生き方に、私たちはいつも励ま
されております。

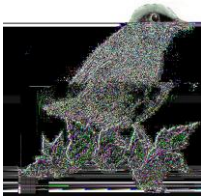
藤井 はるま 様

明治四十三年生まれで、お一人で
暮らしておられます。
「致とちがいますねんで。実感
や」と話され、即興で口ずさまれて
います。

わが顔に 会いたくはなし 鏡前

あんなに といいたくなる 鏡前

枕元 トイレおいてねむるかな



「お母さんの姿に学んで」

寺西 ミサオ 様

寺西様は九十四歳。二階にミサヲ
さん、三階に長男の妻、四階に孫家
族が住んでおられます。五月三十一
日の退院を機にヘルパーの利用が始
まりました。長男の妻の幸代様にお
話を伺いました。

「退院した晩に排泄のことをとても
心配されたということですが、二回
目からすぐトイレにご自分で行かれ
るようになりました。朝食をベッド
横のテーブルまで運んでいましたの
に、もう一度元気になりたいという
気持ちからか、一週間後には三階へ
の階段下に、次は中段に、そして上
までお膳がさげられるようになり、
ひとりで階段を下りられるまでにな
りました。こんなミサオさんの姿か
らいつも無言の教えをいただいでい
ます。」と話されています。幸代さん
は会社の仕事をしながら、食事時に
は帰宅して一緒にたべられるそうで
す。ヘルパーが入浴介助に訪問する
ときには準備をされ、着脱を手伝っ



てくださいます。仕事が重なるとき
は孫の妻の協力もあります。
「痛みや不足を言うこともなく、い
つもにこにこ感謝されるミサオ様
です」

編集後記

「このニュースは今後も定期的に発
行したいと考えております。」と宣言し
てしまった昨年度の編集後記。あれは、
第二号も絶対出さずぞ！という呪縛だっ
たのでしょうか。第一号から約一年。
リニューアルしたとは言いがたい部
分・部分に、あたふた作成した影が
ちらちら見え隠れしているとは思いま
すが、呪縛に背中をつつかれながら、な
んとか発行までこぎつけました。ただ、
このニュースはいつもお世話になって
いる皆様への感謝のしるし。そうなる
と来年もふんばらないと、と気持ち新
たにしています。

また、今回のニュース発行にあたり、
ご協力くださいました、加納様、村井
様、野木様、西野様、大橋様、佐々木
様、松井様ありがとうございます。
ニュースの内容や、たむらソーシャル
ネットの事業に関して、ご意見、ご助
言ございましたら是非スタッフまでお
ねがいします。

〔O・K〕

〒542-0066

大阪市中央区瓦屋町3丁目2-24

TEL 06-6766-7071

(有)たむらソーシャルネット

徳島へいざ出発！！

この夏、念願かなったり。

野木様、故郷・徳島へ里帰り！西野様、初の徳島体験！

ミニ旅行
はじめて来たよ
徳島県
(西野)

あれ、なつかしや〜♪

ふるさとの
両親眠る
墓参り
(西野)

野木さん、とび
きりの笑顔で
ご満悦。

8月31日、野木春乃さんと西野恵三郎さんと一緒に、野木さんの故郷徳島にお墓参りに行ってきました。お墓には、野木さんのご父母とご主人が眠っておられるとのこと。久しぶりにお参りができ、なつかしかった思い出話を語って下さいました。ご自分の春乃という名は、お母様のよし乃の「乃」と「春」のように明るい娘に育つようお父様が付けて下さったそうで、ご主人の政雄さんはとてもやさしい人だったとのこと。阿波踊りは子どもの時から皆お揃いの浴衣を着て踊っていたとのこと。手だけでも思い出して踊れて楽しかったとお話されています。

「健康で長生きできますように」と拜んでこられたそうです。